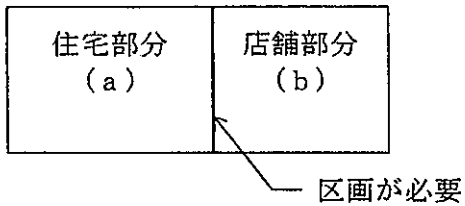


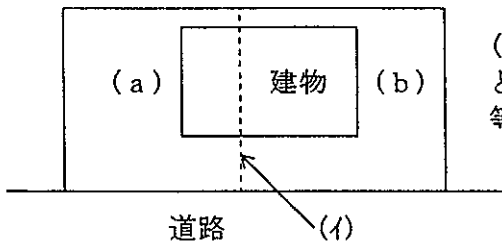
## 建築協定第6条概要

1. 第2項及び第3項の「1戸建住宅」には、同一世帯の離れ（老人部屋・勉強部屋等で生活の一部を母屋で共用する形態のもの）を含む。
2. 第2項第(1)号の「兼用住宅」について



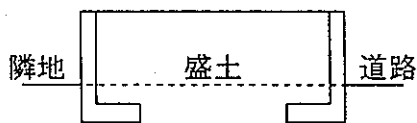
左図で(a)の床面積は延べ面積の1/2以上必要。  
 〃 (b)の床面積は50㎡以下とする。

3. 第2項第(2)号の「区画」について



(a)(b)の敷地が同一の所有権者等であれば1つの敷地として利用できる。(当初の境界線(イ)による外壁後退等の考慮は必要ない。)

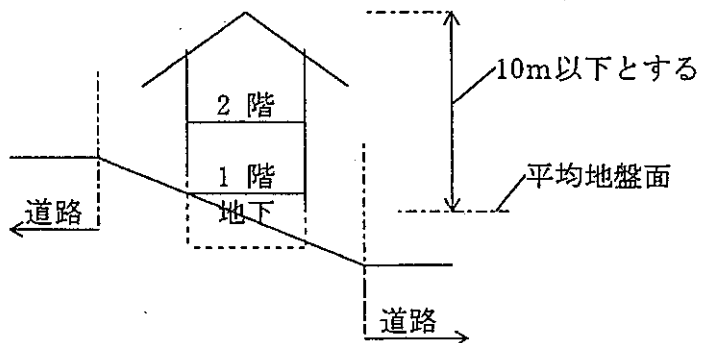
4. 第2項第(3)号の「地盤高の変更」について



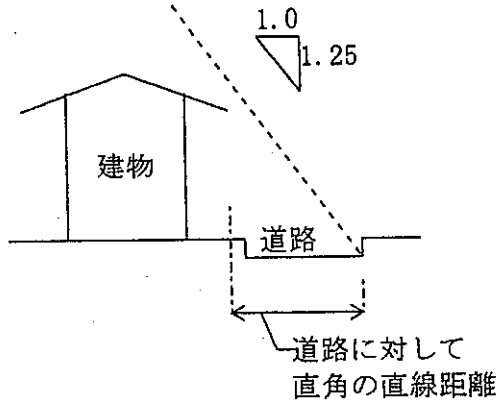
土留め工事をして当初の地盤を嵩上げし、周囲の敷地の環境を著しく悪化させる様な変更は不可とする

5. 第2項第(4)号「階数」・第(5)号「建物高さ」について

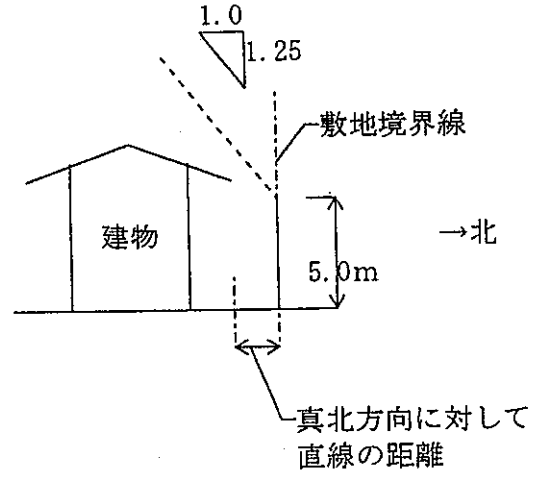
傾斜地に建築する場合



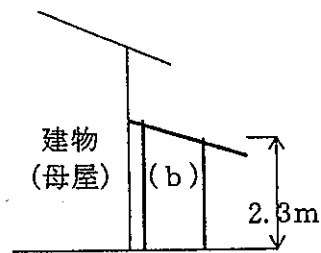
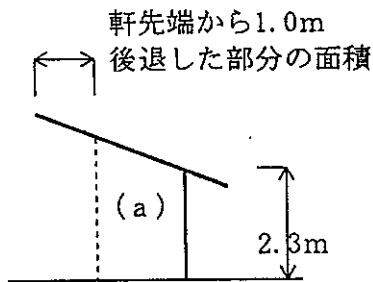
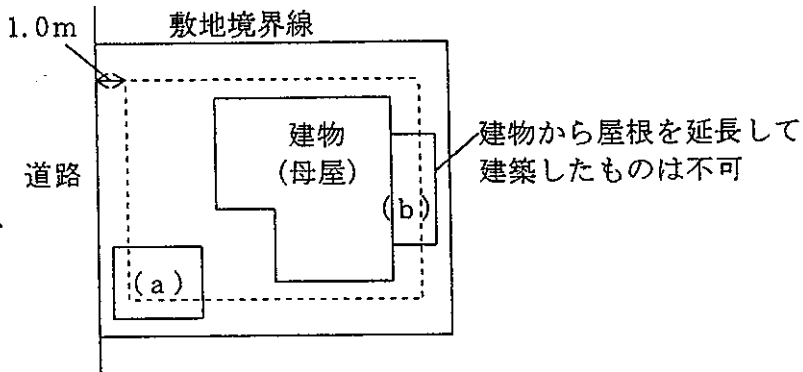
道路斜線  
(点線より外には建築できない)



北側斜線  
(点線より外には建築できない)



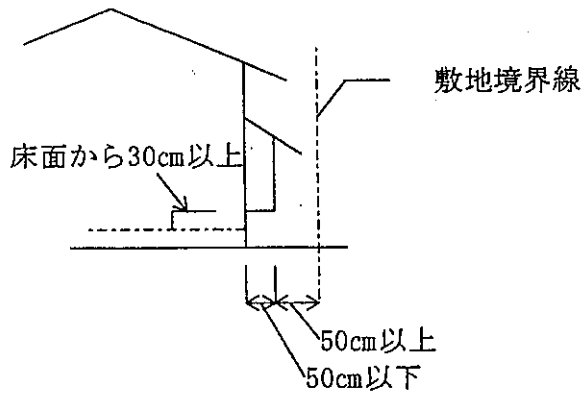
6. 第2項第(6)号の「建物の外壁後退」について



別棟の物置で軒高2.3m以下、面積20㎡以下（車庫は30㎡以下）のものは敷地境界より1m以内でも建築可。  
上図のような片持ちのカポト屋根は軒先端から1m後退した内側の部分を床面積として算定する。

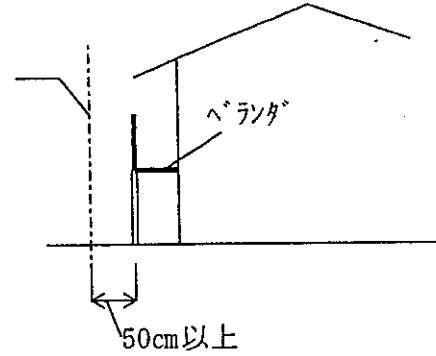
建物に隣接し、独立した構造の物置等で軒高2.3m以下、面積20㎡以下のものは敷地境界より1m以内でも建築可。

出窓について



出窓であるかどうかは建築基準法の通達と同じ判断とする。

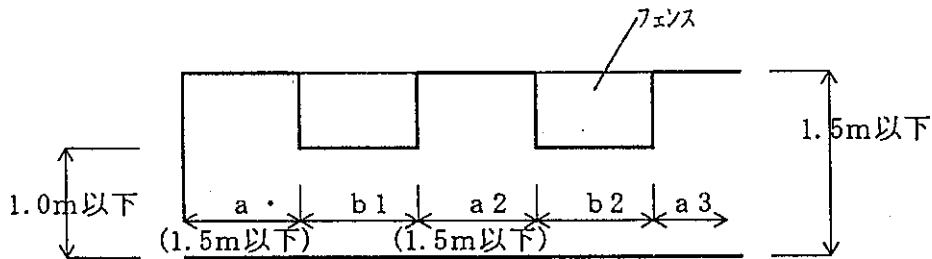
ベランダについて



ベランダの先端及び柱面は敷地境界より50cm以上離す。

7. 第2項第(10)号の「塀」について

塀をコンクリートブロック又はコンクリートとする場合  
フェンス等と組み合わせて開放部分を設ける。



$$a_1 + a_2 + \dots + a_n \leq b_1 + b_2 + \dots + b_n$$

門柱の場合

